

12月4日

2020年
(令和2年)

金曜日
第19700号(日刊)
土・日曜・祝日は休刊

鉄鋼新聞

Japan Metal Daily

日鉄工材

「日本経営品質賞」受賞

電解銅箔の高品質・高機能化で

チタン製電着ドラム
のトップメーカー日鉄
工材(本社・上越市、
社長・宮原光雄氏)は
3日、日本経営品質賞
委員会から最上位賞の
日本経営品質賞(大企
業部門)を受賞した。

顧客価値を創造し続け
る優れた経営革新モデ
ルを表彰する制度。

リーマンショック
後、当時の石川昌弘社
長が経営再建を決断。
顧客の方針課題の理解
に努め、重要顧客の成
長戦略と自社の取り組

みを親和させる「顧客
成長戦略親和」を始動
した。

EX」の開発に成功。
電解銅箔の高品質化に
寄与している。

社内外の協業による
「ベストマッチ製品開
発」で新規事業を探り、
高品質・低コスト・高
効率・高技能の一貫管
理のものづくりを確
立。14年度に全部門の
黒字化を達成。18年に
は世界最高峰のチタン
製電着ドラム「APL
宮原社長は「社員が
互いに理解し助け合っ
ことで目標を達成し、
高付加価値製品、労働
生産性の向上に結実。
受賞を励みにSDGs
目標の実現に向け、社
会的価値のある画期的
な製品を創造していき
たい」とコメントした。

日刊

産業新聞

Japan Metal Bulletin

2020年(令和2年)

12月7日(月)

第20092号
Since1936

日本経営品質賞 日鉄工材が受賞

電着ドラム技術評価

ステンレス・チタン
・その他各種金属・特
殊合金を加工販売する
日鉄工材(本社||新潟
県上越市、宮原光雄社
長)はこのほど、日本
生産性本部経営品質協
議会から2020年度
の「日本経営品質賞」
を受賞した。

同社は日本製鉄のグ
ループ企業で、電解銅
箔メーカー向けのチタ
ン製電着ドラムや冷間
圧延ステンレスフラッ
トバー、配管パイプ、
圧力容器などを製造し
ている。特に電着ドラ
ム製造では、トップス

キンの継目溶接部と母
材を近似化させる特殊
処理技術を誇る。この
技術が高く評価され、
同社の電着ドラムは国
内シェア100%、世
界シェアは累積本数で
推定70%に上る。

顧客の成長戦略と同
社の取り組みを親和さ
せている点や画期的な
製品を生み出す「ベス
トマッチ製品開発と高
生産性一貫管理」に取
り組んでいることなど
が評価された。また組
織風土の変革を行い、
社員と組織の良好な関
係性を築いている点も
表彰理由となった。

受賞を受けて同社は
「これを励みとして、
SDGs目標の実現に
向け、社会に価値のあ
る画期的な製品を創造
していきたい」とコメ
ントした。

日本経営品質賞は、
国際的な競争力強化に
向けた生産性向上を目
的に、顧客価値を創造
し続けるための革新能
力を表彰する制度で、
1995年から始まっ
た。

日本経営品質賞を受賞

日本経営品質賞委員会（東京都）が経営革新で象徴的な企業を表彰する「日本経営品質賞（大企業部門）」に、ステンレス、チタン製品の製造・販売を手掛ける日鉄工材（上越市川原町）が選ばれた。県内企業の受賞は初。

日鉄工材（市^{上越}）が県内初

顧客戦略への親和評価

顧客の成長戦略と自社の取り組みを親和させる手法（顧客成長戦略親和）や全社横断のプロジェクトチームによる新製品開発などが評価された。顧客成長戦略親和では、自社と顧客をつなぐ役割を担う営業、サービスエンジニアら19人を配置。技術交流会や製品の立ち会い検査の機会を利用し、ニーズの把握や課題の理解を進めている。

高付加価値製品開発や業務改善活動により、2019年度の付加価値労働生産性（企業総生産額のうち原材料や機械の償却費用など生産に必要な原価を除いた、純粋な付加価値）は1860万円で、製造業の平均（860万円）を大きく上回る。

宮原光雄社長は「人間力を発揮し、実現が困難な目標に挑戦すること」を最重視している。

今回の受賞を励み、SDGs目標の実現に向け、社会に価値のある画期的な製品を創造していく」とコメントを出した。



発行所：(株)上越タイムス社

■本社
〒943-8585 上越市高土町2-4-6
TEL.025-525-6666 FAX.025-525-6603



☎ 0120-17-4243
http://www.j-times.jp
メール times@joetsu.ne.jp
(昭和55年12月18日 第3種郵便物認可)

■糸魚川支局
〒941-0067 糸魚川市横町2-4-8
TEL.025-550-1360 FAX.025-550-1361
times-itoigawa@apricot.ocn.ne.jp

上越よみうり

日鉄工材が日本経営品質賞

県内初 顧客視点と社員の幸せ見える化

上越市川原町のステンレスやチタンなどの各種特殊合金製造販売メーカー、日鉄工材(宮原光雄社長)が2020年度の「日本経営品質賞」を受賞した。本県からの受賞は初。

同賞は顧客の視点から経営を見直し、経営革新を進める企業や組織を表彰する制度で、1995年に日本生産性本部(会長・茂木友三郎キッコーマン取締役名誉会長)が創設した。

同社は47年創業。主力製品のチタン製電着ドラムは、電気自動車のリチウムイオン電池や5Gなどのスマートフォンなどの先端機器に使用される電解銅箔の製造設備で、国内シェア100%、世界

シェアもトップを誇る。リーマンショックの影響で業績が悪化していた2012年に石川昌弘前社長が就任し、社員のリストラに頼らない経営再建に着手。顧客の顕在的なニーズや将来に向けた方針、課題を把握し、顧客の成長戦略と自社の取り組みを融和させる「顧客成長戦略親和」や、全社横断プロジェクト

ムによる新製品開発などが評価された。

また職人気質から、一体感や連帯感を持つ組織風土に変革し、社員個人の幸せを見える化するなどの「働き方・生き方改革」を実行。今年6月の宮原新社長就任後も継続して取り組んでいる。

ハウスクリーニング 福屋
上越入465-7
0120-298-352

同社は「社員がお互いを理解し助け合い、実現困難な目標を達成することで、高付加価値の製品を作り、労働生産性を向上させてきた。受賞を励みに社会に価値のある画期的な製品を創造していきたい」としている。

表彰式は来年2月18日に東京都内で行われる。